

2018年11月吉日

報道関係各位
プレスリリース

ファースト・パトロネージュ・プログラム事務局
一般財団法人川村文化芸術振興財団
一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

工芸のつくり手のスタートを、みんなで買って使って支援する
& 日本中から集まった、次世代のスター候補に会いに行く
ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 が 12/16、17 丸の内で開催！



ファースト・パトロネージュ・プログラム 2017 会場の様子

イベント紹介：『若きつくり手のスタートを、社会みんなで応援してゆきませんか。おうちで愛でる工芸品、2500円から。ここで購入すると最初のお客さんの証[ファースト・パトロン・カード]がもらえ、将来、応援したつくり手の活躍と一緒に喜ぶことができます。』全国の工芸の名門校がこの企画にふさわしい、次世代のスター候補のつくり手を推薦、選ばれたつくり手が本展のために制作した作品を展示します。昨年の好評を得て第2回となる本年は、12校から各2人ずつ、24人が出展。工芸教育の名門校がその特色を訴求したり、教え子たちの実力を競い合ったりする場の様相も呈してきました。工芸専門家、プロデューサーやギャラリストのかたにとっては、卒展よりも確実にスター候補に出会える場となります。『工芸の新人作家、大発掘！「ハジメテを応援」みんなで！』というこの特別なイベントにぜひお出かけください。
「FIRST PATRONAGE PROGRAM(ファースト・パトロネージュ・プログラム)2018」は2018年12月16日(日)・17日(月)の2日間、KITTE丸の内地下にて一財)川村文化芸術振興財団が、一社)ザ・クリエイション・オブ・ジャパン(CoJ)と協力し開催いたします。

- 名称：**ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018
会期：2018年12月16日(日) 13:00~19:00 / 17日(月) 11:00~18:00 ※17:00~表彰式開催
会場：KITTE 地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン 東京都千代田区丸の内2丁目7番2号
入場料：無料・展示即売会
参加機関：筑波大学／東京藝術大学／女子美術大学／武蔵野美術大学／富山市立富山ガラス造形研究所／金沢美術工芸大学／石川県立九谷焼技術者自立支援工房／岐阜県立多治見工業高等学校専攻科多治見市陶磁器意匠研究所／京都市立芸術大学／京都伝統工芸大学校／香川県漆芸研究所
主催：一般財団法人 川村文化芸術振興財団
協力：一般社団法人 ザ・クリエイション・オブ・ジャパン (CoJ) **後援：**産経新聞社

Press Release

◆本事業の趣旨と仕組み：

工芸の分野で、これから立つ、よきつくり手たちにとって「ロケットスタート」となるような場づくり、同時に、工芸を育む応援者を社会に増やしてゆく場づくりを目指した事業です。

現代日本では無名のつくり手たちに光の当たる場が少なく、独り立ちしてから衆目を集めるチャンスをつかみ、仕事を続けていける環境ができるまで、まだまだ長い時間がかかってしまいます。

現代アートから工芸まで、それを支える文化を育む土壌づくりに寄与する川村文化芸術振興財団では、これからの日本に、「パトロネージュ（支援）の心」を拡げたいと考えました。

工芸の名門 12 校より、本趣旨に賛同を得、多大なるご協力をいただきました。今回がデビュー、もしくはデビューしたばかりの、社会に送り出したいつくり手たち各校 2 人の推薦者となり、初仕事におけるハウツーなど細やかな指導までいただき、出展まで併走いただきました。

いよいよ、12月16日（日）～17日（月）の2日間、全作家来場のもと、展示販売を行います。各作家が持ち帰れるサイズで暮らしのなかで愛でる工芸を主題に50点を上限に出品、一畳大展示台に展示します。単価は2500円～（なくなり次第終了）。各作家は、主題の出品作のほかにも、ポートフォリオや代表作1点も展示します。ここでの購入者には作家のメッセージ入りの支援者の証『ファースト・パトロン・カード』を進呈いたします。このイベント、「ファースト・パトロン・ージュ・プログラム 2018」は、大丸有エリアで働く方々にご気軽にお立ち寄りいただけるよう、東京駅地下直結、KITTE 地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーンにて開催いたします。

この企画は、「社会みんなで」という趣旨で、全国の工芸教育機関、会場となる丸の内という街、さまざまな方々に本趣旨にご賛同いただき、併走いただいていることによって実現しています。このイベントの裏には様々な人と人とのドラマが生まれます。「パトロネージュ（支援）の心を拡げる」本事業にご注目いただきお力を下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。



Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■筑波大学

筑波大学芸術系の工芸領域は、陶磁、木工（漆）、ガラスの3分野からなる。総合大学の中にある芸術系の特徴を活かし、広い視野と問題解決能力を育み、造形要素としての素材の特性を知り、選択した材の可能性を活用し、その材だから可能となる表現を追求するために何をすべきかを学ぶ。他の美術系大学にない特徴として、授業を横断的に履修することで、各素材の特徴を学び、他素材を組み合わせること(例えばガラスと陶磁素材を組み合わせた造形、漆とガラスなどを融合させる試み)などが比較的容易に可能となるようにカリキュラムが構成されている。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

安原喜孝、栗田保久、兼田昌尚、松井康陽、戸田浩二、塩谷良太、福本歩、福島かおり、田村星都、梶木奈穂、垣沼千亜季、砂山ちひろ、黒川徹、安井ちさと、遠藤章子、荒谷翔



福山 菜穂子 ふくやま・なおこ 作陶家

【プロフィール】

- 1991 岩手県盛岡市生まれ（現在:茨城県在住）
- 2014 筑波大学芸術専門学群 卒業
- 2016 筑波大学人間総合科学研究科 博士前期課程 芸術専攻 修了
- 2014 茗溪会賞（筑波大学芸術専門学群 卒業制作展）
- 2016 茗溪会賞（筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻 修了制作展）



【推薦コメント】 筑波大学 芸術系 准教授 齋藤敏寿

福山の作品は、何気無い生活の一部にさりげなく溶け込む気品のあるかたちである。そのかたちに隠された作り手の思考が、どこかで見た景色をまといながら柔らかい場と気配をモノに宿させる。数ミリにこだわる確固たる作陶技術も秀逸であり、これからは期待できる若き作家である。



和田 絢太郎 わだ・けんたろう グラスウェアメイカー

【プロフィール】

- 1992 兵庫県尼崎市生まれ
（ドイツとイギリスを経て、現在:東京都台東区在住）
- 2015 筑波大学芸術専門学群構成専攻 卒業
- 2018 筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻 修了
現在 東京都在住
千葉県成田市にて制作活動を行なっている
- 2018 「筑波大学 卒業・修了作品展」優秀作品賞



【推薦コメント】 筑波大学 芸術系 准教授 齋藤敏寿

和田の色彩感覚は、一般に認識するガラスの特色を越境して独自の表現となっている。近未来の生活を想像させるモノを取り巻く空間と場の提示。今後は様々なクリエイターと交流・コラボレーションをする機会を得ることでグローバルな飛躍を期待させる作り手です。

■東京藝術大学

昨年創立130周年をむかえた東京藝術大学は、国立の大学で、日本で唯一の総合芸術大学です。前身である東京美術学校の創設当初に専修科美術工芸として、金工と漆工が設けられました。1975年に現在の学部の体制である、彫金・鍛金・鋳金・漆芸・陶芸・染織の基礎及び専門課程となり、その後1995年に木工芸、2005年にガラス造形の2研究室を大学院に加わりました。そして本年度から、漆芸と木工芸が統合し、漆芸（漆工・木工）に、陶芸とガラス造形が統合し、陶芸（陶・磁・ガラス造形）と新しい編成になりました。本学科の特徴でもある実材を使った実技教育は、各専門課程それぞれの素材感を重視した、高度な伝統技法の習得と、造形表現への展開力を養ってきました。また、自己の確立を目的に最新の技術と情報を取り入れた少人数制の個人指導を行っています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

大樋長左衛門、板谷波山、香取秀真、高橋節郎、津田信夫、六角紫水、宮田亮平、室瀬和美など



赤澤 雛子 あかざわ・ひなこ 造形作家（金工）

【プロフィール】

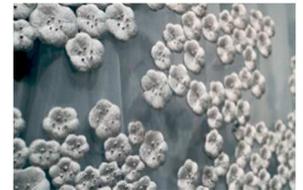
1995 千葉県生まれ（現在:千葉県在住）
2014 東京藝術大学美術学部工芸科 入学
2018 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
2018 東京藝術大学修士課程美術研究科工芸専攻鋳金 入学

2017 宮田亮平奨学金
2018 公益財団法人戸部眞紀財団奨学生



【推薦コメント】 東京藝術大学美術学部工芸科鋳金 教授 赤沼潔

学部の時より造形力豊かな作品を多く制作してきた。卒業制作時に手がけたアルミニウムの作品は細部へのこだわりと作品全体の広がり魅力的であったが、大学院に入ってからさらにその造形の研究を続け、小品でまとめあげられるようになってきており、ぜひともご覧いただきたい。



三塚 貴仁 みつか・たかひと ジュエリー作家

【プロフィール】

1993 東京都生まれ
2017 東京芸術大学 美術学部工芸科 卒業
2019 東京芸術大学大学院美術研究科 工芸専攻 彫金 在学中

2015 日本金銀創作展 東京銀器会長賞
2016 日本ジュエリーアート展 入選
2017 伊丹国際クラフト展 入選
2018 日本ジュエリー展 入選



【推薦コメント】 東京藝術大学美術学部工芸科彫金研究室 准教授 岩田広己

東京藝術大学大学院二年生彫金専攻に所属する三塚貴仁は、日頃、彫金技法を駆使したジュエリー表現として、金属を元に具象的なモチーフからミニマムにデザイン要素を引き出し、幾何学的な形態へと変換をおこなったジュエリー作品を生み出し研鑽を積んでおります。アートと人を結ぶツールともいえるジュエリー表現の可能性を見だし、身体との関係性を考えた表現は、今後の作品展開と飛躍を期待できるため、ここに推薦致します。



Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■女子美術大学

染、織、刺繍、陶、ガラスの分野で、創作に求められるものは、3つ。現代に通用する発想力、伝統に根ざした技術と知識、そして発想を形へと導いていく力です。多くの実践を通じて、これらを探っていく過程では、自らの手で根気よく形にしていくことの意義も学びます。伝統工芸を現代の表現へと展開させる推進力として、デザイン力を養うことにも重点を置いています。伝統の継承と、現代の創作を両輪に、手しごとを日々とする創り手を育てています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

大木 夏子（染織作家・テキスタイルデザイナー）山崎 菜穂子（染色家）工藤 聖美（染織作家）
田中 章子（造形作家）鈴木 洋子（刺繍作家）藤田 千鶴（刺繍作家）辻本 喜代美（陶芸作家）
奥村 巴菜（陶芸作家）山田 春美（ガラス作家）三留 舞（ガラス作家）



遠坂 美樹 えんざか・みき 染織作家

【プロフィール】

1994 神奈川県横浜市生まれ（現在:東京都在住）
2013 女子美術大学付属高等学校 卒業
2017 女子美術大学 工芸学科 織コース 卒業

2017 女子美術大学卒業制作 美術館奨励賞 受賞
2017 若手支援プロジェクト展 -まなざしの先に- 入選



【推薦コメント】 女子美術大学 副学長 五十嵐義明

天然染料による染色や、絣織などの伝統技術を活かし、織物特有の色彩、立体感や抑揚を反映した作品を制作している。また天然繊維のみならず、従来の織物には使われていないプラスチックフィルムなどの化学繊維素材に挑戦し、独自の作風を生み出している。和装小物などの制作を手がけ、今後の展開が期待できる作家ですので、宜しくお願い致します。



佐藤 碧 さとう・みどり 染色作家

【プロフィール】

1995 東京都荒川区生まれ（現在:神奈川県在住）
2017 女子美術大学 デザイン・工芸学科
工芸専攻 テキスタイルコース 染 卒業

同年 若林株式会社 勤務
2018 女子美術大学 工芸専攻 染コース助手



【推薦コメント】 女子美術大学 副学長 五十嵐義明

友禅染の糸目糊を用いて柔らかな描線による独自の表現を確立しようと意欲的に作家活動に励んでいます。空気感のある軽やかな描線と繊細な色使いが持ち味です。着物の一品制作や女性に向けたハンカチやスカーフの制作を得意としています。今後の活躍が大いに期待できる作家です。



Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■ 武蔵野美術大学

本学科のクラフトデザインコースは、2 年次後期から、木工、金工、ガラス、陶磁、テキスタイルの専攻に分かれ、家具や室内装飾、装身具、テーブルウェア、ファブリックなど、工芸的な手仕事やプロダクトデザインの可能性を模索しながら、制作、提案を行います。課題ごとに、5 コース全体で行う作品の発表や講評もこのコースの大きな特徴です。また、通常の課題だけでなく、様々な分野のクリエイターによる特別講義や企業との共同研究、海外でのワークショップ、学外展示など、社会に向けたアプローチを積極的に行なっています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

十四代今泉今右衛門：1985 年工芸工業デザイン学科卒業 菊見吟子：2001 年工芸工業デザイン学科卒業
富沢恭子：2004 年大学院造形研究科デザイン専攻工芸工業デザインコース修了
安藝俊郎：2007 年大学院造形研究科デザイン専攻工芸工業デザインコース修了



鷹取 奏 たかとり・かな 陶磁作家

【プロフィール】

1995 大阪府和泉市生まれ（現在:東京在住）
2018 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科卒業
2018～ 武蔵野美術大学 共通デザイン研究室勤務



【推薦コメント】 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科 教授 西川聡

手びねりという技法を使って、人体の持つ形の柔らかさや膨らみの形態をモチーフに制作を続けている。女性的な作品でありながら、芯の強さも内包する。土の豊かな表情を美しく生かした作品だ。



成田 真由香 なりた・まゆか アーティスト（陶磁）

【プロフィール】

1995 神奈川県横浜市生まれ（現在:東京在住）
2018 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科 卒業
2018～ 武蔵野美術大学 陶磁研究室 勤務



【推薦コメント】 武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科 教授 西川聡

泥状の磁土を絞り出しながら、文様やテクスチャーを作っている。作者は、肉眼では見えない微生物の世界に心惹かれているらしい。太古の化石のような不思議な魅力を感じる作品だ。

■富山市立富山ガラス造形研究所

富山ガラス造形研究所は、「ガラスの街 富山」に1991年に全国初の公立のガラスアート専門教育機関としてスタートしました。ガラス造形の基礎を習得する造形科と、さらに高度な研究をする研究科があり、海外の教育機関とも提携しながら国際的に活躍できる人材の育成に努めております。全国そして海外から、ガラスに魅せられた有能な学生が集まり、自然豊かな環境のなかで技術と創造性を磨き、ガラス造形作家としての自立をめざして、日々学んでおります。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

作道僚子（富山） 安田泰三（富山） 江波富士子（神奈川） 西川慎（山口） 小島由香子（富山）
西中千人（千葉） 久保裕子（富山） 津坂陽介（富山） 山本茜（京都）



佐々木 光 ささき・ひかり 造形作家（ガラス／ペインティング）

【プロフィール】

1991 岩手県奥州市生まれ（現在：富山県在住）
2014 京都造形芸術大学 総合造形ゼミ 卒業
2016 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
2017 3-7月 Gerrit Rietveld Academy 交換留学
2018 富山ガラス造形研究所 研究科 修了
2018 4月- 富山ガラス工房 第2工房 勤務

2013 京都造形芸術大学 優秀学生賞 2014 越中アートフェスティバル 入選
2015 Stanislav Libensky Award 2016 選出



【推薦コメント】 富山市立富山ガラス造形研究所 主任教授 本郷仁

佐々木光さんは、京都造形芸術大学で美術を学び、その後富山ガラス造形研究所で4年間、ガラスアートを学びました。その間にオランダのリートフェルト・アカデミーでの留学も経験しています。現在は富山ガラス工房のスタッフとして勤務しながら、自身の制作も続けています。彼女のアート作品は、空間をダイナミックに使ったインスタレーション作品が多いのですが、器を中心としたプロダクト作品にも軽やかなセンスを感じます。



宮本 崇輝 みやもと・たかき ガラスクリエーター

【プロフィール】

1985 東京都東村山市生まれ（神奈川県相模原市、長野県安曇野市
デンマーク・エーベルトフトを経て、現在：富山県富山市在住）
2010 多摩美術大学 工芸学科 ガラス専攻 卒業
2010 高橋ガラススタジオ 制作助手
2011～2015 あづみ野ガラス工房
2016 Møhl & Drivsholm Glas 制作助手
2017 ロイヤル・デンニッシュ・アカデミー アーティスト・イン・レジデンス
2018～ 富山ガラス造形研究所 助手

2012 第5回現代ガラス展 入選 2015 第6回現代ガラス展 入選
2017 公益財団法人野村財団 芸術文化助成
2018 第7回現代ガラス展 入選



【推薦コメント】 富山市立富山ガラス造形研究所 主任教授 本郷仁

宮本大輝くんは、多摩美術大学でガラスを専攻し、卒業後は国内外で個人作家のアシスタントやガラス工房のスタッフとして経験を積み、現在は富山ガラス造形研究所の助手として勤務しながら自身の制作を続けています。彼の作品は、デンマークでの制作経験で得られた北欧のデザインセンスに日本的な美意識のエッセンスを加えた、ユニークなものと言えるでしょう。今後の活躍が期待される若手作家です。

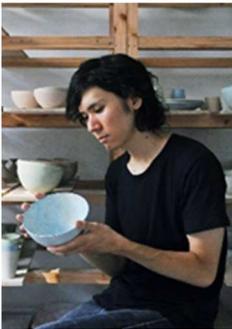
■金沢美術工芸大学

金沢美術工芸大学は、1946年に金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立されました。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現に高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、本学は知と創造の拠点となることを目指しています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

北出藤雄（色絵磁器） 中川衛（象嵌、人間国宝） 前史雄（沈金、人間国宝） 久世建二（陶造形）
島山耕治（鋳金） 扇田克也（ガラス） 山村慎哉（漆芸） 山本健史（陶造形） 前田宏智（鍛金）



齋藤 一 さいとう・まこと 陶芸家

【プロフィール】

1989 北海道札幌市生まれ（現在:愛知県瀬戸市在住）
2014 金沢美術工芸大学工芸科 卒業
現在 愛知県瀬戸市にて制作

2012 「第5回現代茶陶展」入選
2015 「第44回長三賞常滑陶業展」入選



【推薦コメント】 金沢美術工芸大学 工芸科教授 山本健史

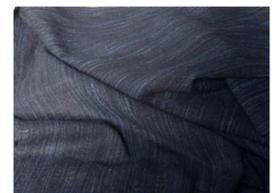
齋藤はシンプルな形態に淡く微妙な色彩をまとった器を作っている。その器を手にとるとすぐに理解できるはずだが、それは視覚へのアプローチだけでなく我々の五感に訴えかけてくる力をもっている。素地の上に色素を含んだ化粧土や釉薬を重層的に乗せることで、重さの感覚を起点として触覚や色彩から感じ取れる「生命」を宿す器へと変容を遂げるのである。



弘田 朋実 ひろた・ともみ / Be clothed blue 手紡ぎ藍染め作家

【プロフィール】

1989 京都府長岡京市生まれ（現在:石川県金沢市在住）
2008 京都市立銅駝美術工芸高校 彫刻科 卒業
2012 金沢美術工芸大学 工芸専攻染織コース 卒業
2014 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科工芸専攻 修了
現在 同大学染織コースの臨時助手として勤務の傍ら、「Be clothed blue」
として制作を続ける。
毎年生活工芸関連のイベントに参加し、糸紡ぎや織物のワークショップも行う。



【推薦コメント】 金沢美術工芸大学 工芸科 足立真実

「Be clothed blue ～藍を纏う～」をテーマに制作する弘田朋実は、綿から紡いだ糸を天然発酵建ての藍で染め、手織りで制作するストールやアクセサリーなどを発表する。
安価で大量に生産されたものが溢れる現代の中、一つ一つ想いを込めて丁寧に彼女の手から生れたものたちは、やさしく温かく愛しい。一貫した手仕事から現代にこそ必要な～愛を纏う～ことを伝えようとする活動に期待する。」

Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■石川県立九谷焼技術者自立支援工房

石川県の伝統的工芸品のひとつである「九谷焼」の発展、振興を図ることを目的とした、若手陶芸家の自立を支援するインキュベーション施設です。

3年を期限に自由に使用できる5つの個室工房と、九谷焼に携わる人なら随時使用することができる、窯やロクロなどを備えた共同工房、作品の展示販売などをおこなうギャラリーがあります。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

歴代の個室工房使用者は35名にのぼり、現在各々の工房を構え九谷焼業界で活躍しています。また、個展や公募展で作品を発表するなど、全国的にも活動の場を広げています。



川上 真子 かわかみ・まこ 九谷焼作家

【プロフィール】

神奈川県生まれ（現在:石川県能美市在住）
2012 石川県立九谷焼技術研修所 本科卒業
同年 山本長左氏に師事
2016 石川県立九谷焼技術者自立支援工房個室工房にて独立



【推薦コメント】 石川県立九谷焼技術者自立支援工房 副館長 藤原元

九谷焼技術研修所在学2年目で染付作家になりたいという強い思いから、卒業制作では、江戸琳派の「夏草草図屏風」を題材に染付技法による食器を制作しました。独立後、彼女が描く染付は、花鳥や古典柄など従来のスタイルを意識しつつも、現代にマッチした染付装飾技法を駆使しています。作品には、海の生き物を中心に特に「蛸」を選び、遊び心が詰まった表現には驚かされます。自由なスタイルを主とし、自分の藍色の世界を展開しています。



西野 美香 にしの・みか 九谷焼作家

【プロフィール】

1983 石川県羽咋市生まれ（現在:石川県能美市在住）
2004 金城大学短期大学部 美術学科デザインコース卒業
2013 石川県立九谷焼技術研修所 本科卒業
2014 石川県立九谷焼技術研修所 研究科卒業
同年 九谷焼卸問屋で絵付けに従事
2017 石川県立九谷焼技術者自立支援工房にて独立

2014 石川県立九谷焼技術研修所
卒業制作パーマネントコレクション選定



【推薦コメント】 石川県立九谷焼技術者自立支援工房 副館長 藤原元

九谷焼技術研修所の本科卒業制作では「虫」をテーマに、研究科では、質感の異なる上絵と下絵の組み合わせによる表現を研究テーマに作品を制作し、卒業制作ではパーマネントコレクション作品に選定されました。今、思えばその時の表現が現在の西野美香をつくりあげたと言えます。幾何学的な連続模様は形にリズムを与え、シンメトリックで様々な模様はみる者の想像力を掻き立たせ、色絵九谷の世界に新たな風を感じさせてくれる作品です。

Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■ 岐阜県立多治見工業高等学校専攻科

やきもの産業の人材育成はもちろん、やきもの文化の担い手を育成するために昭和 37 年に創設されました。やきものを基礎、基本から学ぶことができ、高等学校卒業された方、もしくは同等の資格を持たれた方なら入学できる 2 年課程の学校です。初心者から経験者まで生徒ひとり一人の能力に対応しながら指導しています。作品を制作するための材料と環境を整え、よりレベルの高い作品制作にチャレンジしています。また、やきものを多角的にとらえるための課外活動や展覧会にも積極的に取り組んでいます。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

大野耕太郎 加藤陽児 加藤尊也 伊村俊見 東田茂正 阪口浩史 青山貴秀 林茂樹 後藤秀樹
浅野愛民 今井裕子 田中孝 大村剛 日置哲也 山崎裕子 徳川浩 大道宏美 尾木卓弥 兼行誠吾
小西央 徳田吉美 吉田次朗 山口美智江 山下幾太郎 秋山佳吾 谷口竜 白木千華 柴山香織 佐藤朱理



佐藤 朱理 さとう・あかり / a ka ri コンテンポラリージュエリー
【プロフィール】

1981 北海道札幌市生まれ（現在:岐阜県土岐市在住）
2004 北翔大学 修了
2013 多治見工業高校陶磁科学芸術科 修了

第 52 回日本クラフト展入選
第 10 回国際陶磁器フェスティバル 審査員賞



【推薦コメント】 岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科主任 伊村俊見

専攻科修了後から公募展で受賞や入選歴のある人で、最近の修了生では実力がある方です。修了後、カフェの経営に携わっていたが昨年そこから退き、陶磁器を使ったジュエリーの制作に専念する意思を固めたことを知り、今回推薦いたしました。今までにない発想で、新たな表現を展開されることを期待しております。



山田 温日 やまだ・のどか 陶芸家
【プロフィール】

1998 兵庫県神戸市生まれ
（滋賀県信楽町を経て、現在:岐阜県多治見市在住）
2017 滋賀県立信楽高等学校 総合学科 セラミック系列卒業
2019 岐阜県立多治見工業高等学校専攻科（陶磁科学芸術科）修了見込み
2018 「ぎふ美術展」工芸部門 入選



【推薦コメント】 岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科主任 伊村俊見

高校進学時から陶芸を志し、親元を離れ単身信楽へ赴き、3 年間信楽高校で陶磁器について学んできた生徒である。さらに専攻科に進学し陶磁器に関する知識や技術を学び修了後は信楽を拠点に陶芸活動を展開したいと考えている。作品は個性的で重厚な図案の染付を施した器とメカニカルなイメージの立体作品を中心に取り組んでいる。

■多治見市陶磁器意匠研究所

多治見市陶磁器意匠研究所では、陶芸家やクラフトマン、陶磁器デザイナーなどを志す若者が国内外から集まり、美濃焼産地を背景とした当所の独自カリキュラムのもと多彩な技術と知識の習得を目指し研修しています。1951年の設立以来約70年にわたる"人財"育成の歴史を持ち、850名を超える卒業生の面々は、美濃焼業界をはじめ全国の陶磁器産地、さらには海外をフィールドとしてやきもののあらゆる分野で活躍しています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

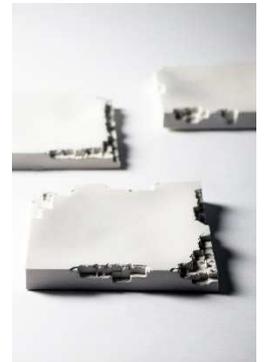
板橋廣美 川上智子 加藤委 酒井博司 猪倉高志 伊藤秀人 若尾経 加藤仁香 大江憲一 加藤智也
横山拓也 川端健太郎 新里明士 柴田正太郎 竹内紘三 若杉聖子 桑田卓郎 柳井友一 松永圭太
松村淳 奈良祐希 馬場康貴など



加藤 浩高 かとう・ひろたか セラミックアーティスト

【プロフィール】

1985 岐阜県多治見市生まれ
(現在:岐阜県多治見市在住)
2008 愛知工業大学工学部建築環境学専攻 卒業
2018 多治見市陶磁器意匠研究所技術コース 修了



【推薦コメント】 多治見市陶磁器意匠研究所 駒井正人

石膏型による鑄込成形だからこそ生まれる魅力的なうつわ。一つ一つ石膏のピースを積み重ねることにより、独特な浸食された表情のうつわを生み出す。初めて多治見市陶磁器意匠研究所でやきものを学び2年と作品はまだ発展途上ですが、自身の考える新たなうつわに真摯に取り組んだ作品です。応援していただければ幸いです。



三宅 日加里 みやけ・ひかり セラミックアーティスト

【プロフィール】

1990 東京都生まれ (現在:岐阜県多治見市在住)
2014 文化学園大学 卒業
2018 多治見市陶磁器意匠研究所デザインコース修了

2018 テーブルウェア大賞 佳作
2018 やきものの現在 青き精神のカタチ展 多治見市長賞



【推薦コメント】 多治見市陶磁器意匠研究所 駒井正人

洗練された形態と端正な彫り、有機的な形態と柔らかな彫り。一見相反する表現のようですがどちらも彼女が感じる磁器の魅力です。器と表現の間で揺れながらも答えを見つけようと日々制作に励んでる若い彼女の仕事を応援していただければ幸いです。

Press Release

ファースト・パトロネージュ・プログラム 2018 参加機関・出展作家

■京都市立芸術大学

京都市立芸術大学は、明治13年（1880）に京都府画学校として創設された、芸術系大学としては全国でももっとも長い歴史をもつ大学です。138年におよぶその歴史のなかで、京都市立芸術大学は設立当初より、日本の伝統芸術を継承・刷新するとともに、日本の近現代芸術の屋台骨を支え、世界的にも高く評価されるアーティストたちを数多く輩出してきました。その意味では、京都市立芸術大学は、京都のみならず、日本の芸術文化のきわめて重要な火床の一つであり、また世界への発信基地でありつづけています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

稲垣稔次郎 清水六和 中村宗哲 森口邦彦 村山明 皆川魔鬼子 秋山陽 栗本夏樹
福本双紅 山野千里 染谷聡



佐々木 萌水 ささき・もえみ / uruō 漆作家

【プロフィール】

1991 北海道生まれ（現在:京都府在住）
2014 京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻 卒業
2016 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻漆工 修了
2014～ 各地イベントなどでの漆体験ワークショップ活動開始
2016～ 滋賀県栗東市にて漆教室開始
2017～ 京都朝日カルチャーにて講師

2014 「素敵な会津塗アート手塩皿漆絵原画デザインコンテスト」
審査員特別賞(グランプリ)
2015 「次世代工芸展」建畠哲賞



【推薦コメント】 京都市立芸術大学 美術学部漆工研究室 笹井史恵

佐々木萌水は、色漆を使った変わり塗りの漆パネルの作品制作とともに、日常のうつわをカラフルな彼女独自の作風で展開し、漆器を現代風に親しみやすいものにしていきます。各地で漆のワークショップを企画するなど活動の幅は広く、今後の活躍にとっても期待できることから佐々木萌水を推薦いたします。



福岡 佑梨 ふくおか・ゆり アーティスト（陶磁）

【プロフィール】

1987 大阪府大阪市生まれ（京都、台北を経て、現在:滋賀県在住）
2011 京都市立芸術大学 美術学部工芸科陶磁器 卒業
2013 京都市立芸術大学 美術研究科工芸専攻陶磁器 修了
2013-2014 京都市立芸術大学 美術学部工芸科陶磁器 非常勤講師
2014-2015 京都市立芸術大学 美術学部工芸科陶磁器 非常勤嘱託

2017 8ª Biental Internacional de Cerámica "Ciudad de Talavera"（スペイン）
[Mención de honor 賞]
2015 第59回ファエンツァ国際陶芸展（イタリア） [入選]



【推薦コメント】 京都市立芸術大学 工芸科陶磁器研究室 森野彰人

福岡佑梨は 2012 年から一貫して青と白の作品をつくり続けています。青と白がマーブル状に混じり合った紙のように薄くのばされた磁器の作品からは、繊細で真摯に陶磁器に向き合う氏の姿が見てとれます。これまでは、展示空間一面に展開するインスタレーションでの展示を行ってききましたが、近年は紙状のパーツを組み合わせた立体作品も制作するようになりました。これからの作品展開に大きな期待が持てることから福岡佑梨を推薦致します。

■ 京都伝統工芸大学校

京都伝統工芸大学校は日本最大の工芸教育機関です。当校は、日本が世界に誇る伝統工芸の技を、従来の徒弟制度ではなく体系的なカリキュラムの中で身につけることを目指し、平成 7 年（1995 年）に開校致しました。開校当初からの、陶芸、木彫刻、仏像彫刻、蒔絵、漆工芸、木工芸（京指物）、金属工芸、竹工芸、石彫刻専攻に加え、2007 年に和紙工芸専攻、2016 年に京手描友禅専攻を開設し、いまでは 11 専攻を展開しています。これまでに 3000 人近い卒業生を全国の工芸産地に送り出し、伝統工芸士や京もの認定工芸士等の称号授与者を多数輩出しています。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

大竹 亮峯（大竹木彫刻）13 期生。木彫刻専攻 2009 年卒。自在彫刻を展開する新進気鋭作家。
長谷川 絢 11 期生。竹工芸専攻 2009 年卒。日展、日本新工芸展、全国竹芸展で受賞多数。
海外でワークショップも行う。



泉 桃子 いづみ・ももこ / MOK 和紙作家
【プロフィール】

1992 兵庫県明石市生まれ（京都で工芸を学び、現在:兵庫県在住）
2011 京都伝統工芸大学校 入学
2013 各種アートフリーマーケットに出店を開始
2013 ホームページを開設。受注生産をスタート
2015 京都伝統工芸大学校 和紙工芸専攻 デザイン特修コース修了
2013 6 月 西宮市展「妖精のたまご」入選



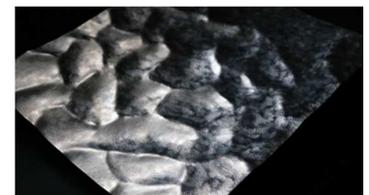
【推薦コメント】 学校法人二本松学院 京都伝統工芸大学校

当作家は本校の和紙工芸専攻に在学中から作家活動に取り組み、2016 年には初個展を開催するなど活躍の場を広げている。当作家の強みは素材となる和紙そのものを制作する技術を有し、妥協のない創作活動に取り組む点である。京都黒谷和紙の紙漉き・加工技術をベースに、独自の探求によって小さなクラフト作品から和紙を用いたファッションデザインまで手がけるようになった。明るい色調の現代的な作品が多いが、黒谷和紙 800 年の伝統を受け継ぎ、和紙工芸の可能性を次世代に広めることのできる稀有な人材であることから、ここに推薦する。



甲斐 可奈子 かい・かなこ / 綾 METALWARE 金属工芸家
【プロフィール】

1984 宮崎県日向市生まれ（現在:京都府在住）
2008 京都伝統工芸大学校 金属工芸専攻 卒業
2008-2016 清課堂にて錫工芸品の製作に従事
2016 清課堂を退社 綾 METALWARE を設立
2009 工芸都市高岡クラフトコンペティション 入選
2010 伊丹国際クラフト展 入選



【推薦コメント】 学校法人二本松学院 京都伝統工芸大学校

当作家は本校の金属工芸専攻に学んだ。在学中から技量は高く、卒業作品はイタリア MIA 展に選抜出展されている。卒業後は清課堂に入職。清課堂は天保九年（1838 年）創業の神社仏閣・煎茶道家元御用品を製造する老舗中の老舗である。当校で修得した伝統技法をいかんなく発揮し、製作部門の主力として活躍した。結婚を機に退職し、現在は錫を素材とした作家活動に取り組んでいる。確固たる技術に裏打ちされた、堅実かつ上品な作品づくりには今後のさらなる飛躍が期待できるため、ここに推薦する。

■香川県漆芸研究所

香川県漆芸研究所は、蒟醬(きんま)、存清(ぞんせい)、彫漆(ちょうしつ)など香川の伝統的な漆芸技法を保存し、後継者の育成と技術の向上を目的として、昭和29(1954)年、全国に先駆けて設置されました。これまでに修了生は400名を超え、その多くは漆芸作家や漆工技術者として活躍しています。

この研究所の最大の魅力は、漆芸技術のみならず造形や色彩感覚、そして漆芸に対する姿勢などを、磯井正美、太田儔、山下義人など人間国宝を含む講師陣から、総合的に直接、学ぶことができるところにあります。

【過去に輩出した工芸関係のつくり手】

蒟醬の重要無形文化財保持者(人間国宝)である山下義人を始め、大谷早人、藤田正堂、北岡省三、石原雅員、松本達弥、藪内江美、松本光太、安藤源一郎、神垣夏子など日本伝統工芸展で優秀賞、奨励賞、新人賞の受賞者を多く輩出しています。



亀井 あゆみ かめい・あゆみ 漆芸家

【プロフィール】

1988 香川県生まれ(現在:香川県在住)
2008 大阪コミュニケーションアート 海洋生物学科 修了
2017 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



【推薦コメント】 香川県文化芸術局 美術コーディネーター 住谷晃一郎

亀井さんは、手芸が好きで、ワーキングホリデーでオーストラリアに滞在したことがある。植物の細胞や孢子に触発されたイメージで知られるテリー・ウィンターズを思わせる作風で、サポテンやタンポポの綿毛などをモチーフに細密な点と線を用いて装飾性豊かな表現に特徴がある。また蒟醬(彫刻刀で模様を彫り、色漆を充填し、平らに研ぎ出す技法)で微妙な同系色の色を使い分けている。



吉田 夏紀 よしだ・なつき 漆芸家

【プロフィール】

1990 大阪府生まれ(1歳より兵庫県に暮らす。
2016より3年間香川県を経て、現在:兵庫県在住)
2013 同志社大学文学部美学芸術学科 卒業
2018 香川県漆芸研究所研究生過程 修了
2018 香川県漆芸研究所研究員過程 現在

2018 第26回テーブルウェア大賞～優しい食空間コンテスト～
特別審査部門「麺の”器”コンテスト」 入選



【推薦コメント】 香川県文化芸術局 美術コーディネーター 住谷晃一郎

吉田さんは、大学で西洋美術を学び、装飾的作風のウィリアム・モリスが好きであった。そして次第にものづくりに引かれ、漆芸を志すようになった。ブルーを基調にした作風で、蒟醬の丸刀彫りや線彫りに色を重ねた複雑で深みのある色彩に特徴がある。作品のタイトルには何かしら謎めいたテーマ性があり、思索によって深く沈潜した感情を器物に象徴的に凝縮するように表現している。

是非、貴媒体にてご紹介下さいますようお願いいたします。
尚、掲載用写真の貸出等、ご質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

ファースト・パトローネージュ・プログラム事務局
一般財団法人川村文化芸術振興財団
一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン(CoJ)

■主催者・本事業に関するお問い合わせ

一般財団法人川村文化芸術振興財団
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-15-2 新神田ビル 3F
TEL : 03-5295-2120 FAX : 03-3526-2292 E-mail : info@kacf.jp
<http://www.kacf.jp/>

■本プレスリリース・広報取材に関するお問い合わせ

一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン(CoJ)
広報担当：岩関禎子（CoJ 専務理事兼事務局長・川村文化芸術振興財団理事）
〒104-0061 東京都中央区銀座 5-3-12 壹番館ビルディング 3F
TEL : 03-3573-3339 FAX : 03-3573-3315 E-mail : info@thecreationofjapan.or.jp
<http://thecreationofjapan.or.jp/>

一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 事務局 岩関 宛

【FAX】 03-3573-3315

【E-mail】 info@thecreationofjapan.or.jp

取材申込書

ファースト・パトローネージュ・プログラム 2018

日時:

◆2018年12月16日(日) 13時—19時

◆2018年12月17日(月) 11時—18時

会場: KITTE 地下1階 東京シティアイ パフォーマンスゾーン

貴媒体名

部署

ご氏名

(住所)

(電話)

(E-mail)

ご希望の取材日時

◆ 2018年12月14日(金)までにご提出ください。

【通信欄】